☆★☆　農作業事故・熱中症に気をつけましょう　☆★☆　　令和8年７月8日発行

畜　産　情　報　第　３　号（R8．7．8～R8．11．10）

県中農林事務所須賀川農業普及所
ＪＡ夢みなみ（すかがわ地区・いしかわ地区）



1　家畜の生産性を維持・向上するため、暑熱対策に取り組みましょう！

仙台管区気象台が発表した東北地方の３ヶ月予報（令和８年６月２３日発表）によると、向こう３ヶ月（７月から９月）における平均気温の高い確率は４０％ですが、近年の夏の気温は全国的に 35℃以上の猛暑日が日常化する極端な高温傾向となっているため、今年も暑い日が続くことが予想されます。異常家畜の早期発見・早期治療に努め、生産性の低下を防ぎましょう。

表1　適温域と生産環境限界温度

	適温域（℃）	生産環境限界温度（℃）	
		低温	高温
哺乳子牛	13～25	5	32
繁 殖 牛	10～15	-10	30
肥 育 牛	15～25	5	30
乳 用 牛	10～18	-13	27

表2　風速と体感温度

風速(m)	体感温度
0．5	−4℃前後
1．0	−6℃前後
2．0	−9℃前後



（1）畜舎環境

〇扇風機やダクトファンを使って、体感温度を下げましょう（表２参照）。
　また、畜舎内のホコリやクモの巣は落としましょう。
〇牛は体の前半部分、首から肩にかけて多く汗をかきますので、この部分に直接、風を当て、気化熱を利用して体温を下げることが重要です。
〇窓は大きく開け、牛舎内や牛舎の周囲に余計なものを置かず、風通しを良くしましょう。
　通路に扇風機を設置する場合は、同じ向きに設置して風の流れをつくり、湿気を追い出しましょう。
〇寒冷紗やスダレ、グリーンカーテン（ツル性の植物などをネットに這わせてカーテンの様に覆ったもの）などを利用して直射日光を遮光し、畜舎内の温度上昇を防ぎましょう。西日にも注意が必要です。
〇屋根への石灰塗布や散水、畜舎周辺への散水も畜舎内の温度上昇を軽減する効果があります。
〇運動場（パドック）に出す場合は、寒冷紗など日除けを設置し、常に新鮮な水が飲めるようにしましょう。
〇密飼いは避けましょう。適正な飼養密度は、暑さだけでなく家畜のストレスも軽減します。
〇こまめな除ふんを行いましょう。ふん尿は熱源・湿度源となります。

（2）飼料給与

〇牛は採食すると、ルーメン発酵による熱が発生します。
　質の劣る粗飼料は、ルーメン内の発酵熱を高めるため、良質な粗飼料を給与しましょう。
〇水槽やウォーターカップの掃除をして、常にきれいで新鮮な水を飲めるようにしましょう。
〇給餌回数や飼槽の掃き寄せ回数を増やしたり、早朝や夜間の涼しい時間帯に多めに給与するなどの工夫によって採食量の低下を防ぎましょう。
〇高温時は発汗や排尿により無機質の要求量が増えるので、固形ミネラル塩などにより補給しましょう。
〇夏期は食べ残した飼料が飼槽内で変敗しやすいので、食べ残した飼料は早めに片付け、飼槽を清潔に保ちましょう。

（3）その他

〇毛刈りの実施や牛の体表に固着した“ヨロイ”（体表付着糞便）を落とすことも、体表からの熱放散が促進され、体感温度の低下に効果的です。

2　稲ホールクロップサイレージの収穫・調製・保管上の留意点及びモニタリングについて

◆ＷＣＳ用稲の収穫適期は黄熟期（出穂後 25～40 日）です。早めに作業計画を立てて、適期収穫に努めて下さい。なお、収穫適期が出穂期 30～40 日以降でも良質な発酵品質が期待できる専用品種もありますので、興味のある方は須賀川農業普及所までお問い合わせください。
◆収穫作業を円滑に行い土砂の混入を防ぐため、**早期（出穂始期頃）落水し、ほ場（田面）を固くして下さい。**
◆**雨天時や朝露が残る状態では、刈り取りをしないでください**（高水分となり、不良発酵します）。
◆ロールを排出するときは、ほ場の土に触れないようにできるだけブルーシートの上に排出して下さい。
◇収穫・調製した稲 WCS は、排水良好な平坦な場所に保管して下さい。保管は縦置きで、積み上げる場合も２段積みまでとして下さい。また、ラップフィルムが破損しないようにして下さい。
　鳥害対策として、防鳥ネットで覆う他、周囲にテグスを張るのも効果的です。ただし、テグスの支柱にしなやかなものを用いるとラップフィルムが破損する恐れがあるので、注意が必要です。
◎令和８年度も、１市町村あたり原則３点のモニタリング検査で安全性を確認しますので、ご理解とご協力をお願いします。

作成者：県中農林事務所須賀川農業普及所　　電話：0248-75-2180　FAX：0248-72-8331
ご不明な点がありましたら最寄りのＪＡ、須賀川農業普及所までご連絡ください。次回の発行予定は、１１月１１日（水）です。